



The Japanese Red Cross Society of Nursing Science

日本赤十字看護学会

Vol.13, 2015.

日本赤十字看護学会ニュースレター 第13号 2015年12月発行

NEWS

LETTER

— 1



「不公平な (partial)」の否定形である「公平な (impartial)」は、行動を起こす動機に限って用いる。つまり行動しない人は公平な人であるということではない。

ジャン・ピクテ著「赤十字の基本原則」p58

日本赤十字看護学会理事長に就任して

日本赤十字看護大学 高田 早苗

日本赤十字看護学会の理事長に就任いたしました。本学会は2000年の設立からちょうど15年目を迎えます。これを機に改めて初代理事長樋口康子先生による設立趣意書を読み返しました。

冒頭に、赤十字の理念に基づく個々の実践を学術的に意味づけ、体系的に明らかにするのは赤十字看護専門職の使命であると力強く言明されています。これを受けて、学問的探究と実践・教育・研究の結びつきを強めることの重要性から、次の3つの課題に取り組む学術的な組織基盤としての本学会の設立が呼びかけられています。

- ①看護学の学術水準の向上・研究の高度化専門化に向けて、発表・共有の機会となる
- ②変化する状況のなかで研究知見に基づく教育と実践を展開するための実践・教育・研究に携わる者同士の交換・共有・研鑽の場とする
- ③国際的に活躍する看護専門職育成と研究ネットワークを拡充する

これらの課題への取り組みをさらに活発なものとしていくこと、組織基盤をより確かなものとしていくことがこれまでのそして今期の理事会の使命であると認識しています。その意味で、現状を確認して取り組みを強化するべきところを明確にしたいと思えます。

学会誌発行を主な役割とする編集委員会、学会の活動を会員や社会に広く知らせる広報活動委員会、そして会員の研究活動を支援促進する研究活動委員会等はそのような学会でも不可欠なものと言えます。つまり、より基盤的な機能を担うものです。その基盤の上で、本学会の特色は臨床看護実践開発事業委員会、国際活動委員会、そして災害看護活動委員会などに表れていると言えそうです。言うまでもなく3つの課題に関連する委員会として設けられており、それぞれに成果を挙げています。昨年タイで第1回国際赤十字看護学会が開催されていることから、国際活動委員会は今後重要性を増していくと考えられます。

学会の組織基盤に目を移します。この数年会員数は1200名前後で推移しています。会員規模に比べるとやや入退会者数が多いかもしれません。これらの状況からやや伸び悩みの状態にあります。会員の獲得に努めると共に、学術集会等を機に入会してくれた会員が魅力を感じて会員であり続けるような学会にしていく工夫も必要と考えます。その工夫のひとつは、会員参画や会員還元を意識した委員会活動です。年度予算という制約はありますが、年に1度の学術集会にとどまらない参加の機会を広げたり増やしたりして、実践・教育・研究の交流をさらに活発なものとするにより、学会員に学術的な面白さや手ごたえを実感してもらおうというものです。さらに、赤十字活動を含む歴史や人道支援のあり方に関連する新たな委員会の立ち上げの検討も視野に入れていきます。

発足から15年、世の中の変化、保健医療環境の変化は加速しています。めまぐるしさ、あわただしさに惑わされず、今こそ「人道」という理念の意味、理念に基づく実践のあり方を自らに問い、互いに確認し合うこと、学問の目的・学会の目的を再確認することが求められていると考えます。

平成27年総会にて、以下の新理事・新評議員が承認されました。

(五十音順)

評議員名簿 (任期：平成27年度総会後～平成30年度総会)

(五十音順)

理事	高田 早苗	日本赤十字看護大学 (理事長)
	若林 稲美	武蔵野赤十字病院 (副理事長)
	浦田喜久子	日本赤十字九州国際看護大学
	河口てる子	日本赤十字北海道看護大学
	小山真理子	日本赤十字広島看護大学
	武井 麻子	東京集団精神療法研究所
	西片久美子	日本赤十字豊田看護大学
	西村 ユミ	首都大学東京
	本田多美枝	日本赤十字九州国際看護大学
	守田美奈子	日本赤十字看護大学
	江本 リナ	日本赤十字看護大学 (指名理事)
	田中 孝美	日本赤十字看護大学 (指名理事)
監事	烏 トキエ	日本赤十字秋田看護大学
	杉浦美佐子	椋山女学園大学

氏名	所属
青木由美子	長野赤十字病院
飯村 直子	首都大学東京
伊藤ヒロコ	大阪府看護協会
伊富貴初美	大津赤十字病院
伊吹はまよ	大津赤十字看護専門学校
植田喜久子	日本赤十字広島看護大学
浦田喜久子	日本赤十字九州国際看護大学
江田 柳子	福岡県看護協会
江本 リナ	日本赤十字看護大学
大島 弓子	豊橋創造大学
大西 文子	日本赤十字豊田看護大学
大和田恭子	日本赤十字社医療センター
奥村 潤子	日本赤十字豊田看護大学
尾山とし子	日本赤十字北海道看護大学
唐澤由美子	東京純心大学
烏 トキエ	日本赤十字秋田看護大学
河口てる子	日本赤十字北海道看護大学
喜多 里己	日本赤十字看護大学
小宮 敬子	日本赤十字看護大学
小山真理子	日本赤十字広島看護大学
坂口 直子	長野看護専門学校
島井 哲志	日本赤十字豊田看護大学
庄野 泰乃	徳島赤十字病院
菖蒲澤幸子	盛岡赤十字病院
杉浦美佐子	椋山女学園大学
澄川 美智	浜松赤十字病院
川原イヅナ	日本赤十字社医療センター

氏名	所属
高田 早苗	日本赤十字看護大学
武井 麻子	東京集団精神療法研究所
竹内 貴子	日本赤十字豊田看護大学
田中 孝美	日本赤十字看護大学
田母神裕美	日本赤十字社
鶴田 恵子	日本赤十字看護大学
中島佳緒里	日本赤十字豊田看護大学
中田 康夫	神戸常盤大学
西片久美子	日本赤十字豊田看護大学
西村 ユミ	首都大学東京
根本とよ子	大森赤十字病院
野口 眞弓	日本赤十字豊田看護大学
ニッ森栄子	元旭川大学
細越 幸子	日本赤十字秋田看護大学
本庄 恵子	日本赤十字看護大学
本田多美枝	日本赤十字九州国際看護大学
松井 和世	高槻赤十字病院
松尾 文美	和歌山赤十字看護専門学校
松澤由香里	北見赤十字病院
宮坂佐和子	諏訪赤十字病院
宮堀 真澄	日本赤十字秋田看護大学
村田 由香	日本赤十字広島看護大学
守田美奈子	日本赤十字看護大学
谷津 裕子	日本赤十字看護大学
若林 稲美	武蔵野赤十字病院
渡邊 智恵	日本赤十字広島看護大学

編集委員会

編集委員会 委員長 本田多美枝

今期、日本赤十字看護学会誌の編集委員会担当理事をさせていただくことになりました。西村ユミ理事、委員の先生方とともに編集委員会活動を一層推進させていきたいと考えております。会員の皆様のご支援・ご鞭撻をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

編集委員会では、より多くの会員の皆様に、研究の成果を公表する場として活用していただけるように、そして会誌から発信された知見が看護実践・看護教育・看護管理の場に還元されていくように、学会誌の編集と発行を行っております。現在、本会誌は年1号(3月)を発刊しておりますが、投稿論文数は徐々に増えてきている状況にあります。本委員会では、今後も投稿論文・掲載論文を増やし、より質の高い魅力的な会誌を維持していけるよう取り組んでいきたいと考えております。そのために、専任査読委員の先生方のご協力のもと、査読過程の迅速化等を含め、さらなる体制整備を行っていきたく思っております。

会員の皆様におかれましては、日頃の実践の成果報告、卒業研究や修士論文・博士論文の公表、そして教育成果などを発信する場として、今後も本会誌を積極的に活用していただきますようよろしくお願いいたします。

編集委員

本田多美枝	西村 ユミ	安部 陽子	植田喜久子	唐澤由美子
本庄 恵子	松本 佳子	村瀬 智子	阿部オリエ	

研究活動委員会

研究活動委員会 委員長 武井 麻子

今年度から阿保順子先生の後任として、研究活動委員長をお引き受けいたしました。これまで大学での職務に追われ、本学会の理事をお引き受けできませんでしたが、定年退職したため、少しでも社会的貢献をしなければと理事をお引き受けした途端、この大役を仰せつかった次第です。右も左もわからない中での船出ですが、神奈川県立医療福祉大学の谷口千絵先生、日本赤十字看護大学の喜多里己先生、古城門靖子先生ともども、何とか頑張って本学会および会員の実践と研究活動に少しでもお役に立てるようにしていきたいと思っています。

本委員会の主な活動は、看護研究セミナーの開催、研究助成、研究奨励賞の選考の3つです。今年度の看護研究セミナーは第16回日本赤十字看護学会学術集会において「質的研究における分析方法」のテーマで、日本赤十字看護大学の谷津裕子先生に講義をしていただきました。研究助成についてもすでに2件の応募があり、選考中です。研究奨励賞は学会での発表の中から優れた研究に対して授与されるものです。これまであまり数は多いといえない状況ですので、何とか会員に周知を図り、活用していただけるようにしていきたいと思っています。

研究活動委員 武井 麻子 谷口 千絵 喜多 里己 古城門靖子

臨床看護実践開発事業委員会

臨床看護実践開発事業委員会 委員長 守田美奈子

日本赤十字看護学会の第6期の理事として、臨床看護実践開発事業委員会の委員長をお引き受けすることになりました。

本委員会は、看護系学会等社会保険連合（看保連）の診療報酬体系及び介護報酬体系等の評価・充実にむけての活動を促進するために第3期目の理事会から発足しております。委員会の目的は臨床に埋もれている技を発掘し、検証、普及させることです。

本委員会活動はニッ森委員長の第1期から数えて第4期目に入ります。第3期は井部委員長のもと、「認知症高齢者のワンセットケアの確立と普及」をテーマに、食事や入浴などに関する認知症高齢者の状況を巡って実践事例を検討し、交流集会で発表するなどの活動を行いました。さらにその成果を「認知症高齢者の世界」として、平成27年6月に日本看護協会出版会から出版しました。

第4期では、3期に引き続き「認知症高齢者のワンセットケアの確立と普及」を目指して、この書籍を会員の皆様に知って頂くことでケアを普及させること、そして事例検討を継続することで、認知症高齢者の世界をさらに探求し、ケアの確立に繋がっていきたくて考えています。

高齢化社会はますます進み、医療や福祉等あらゆる場で認知症高齢者へのケアは重要な実践課題となります。会員の皆様には、認知症高齢者への看護ケア技術の向上に向けて、実践事例等の情報提供や書籍の普及を始め、委員会活動へのご理解、ご協力を引き続きよろしくお願い致します。

臨床看護実践
開発事業委員 守田美奈子 赤沢 雪路 阿保 順子 井部 俊子 上野 優美 川嶋みどり
清田 明美 倉岡有美子 殿城 友紀 中村 綾子

国際活動委員会

国際活動委員会 委員長 小山真理子

この度、国際活動委員会の任務を下記の委員で行うことになりました。

国際活動委員会は、毎年6月の日本赤十字看護学会学術集会後に開催されます国際活動についての交流セッションの企画を行なっております。また、第1回赤十字・赤新月国際看護学会が、平成26年4月にタイ・バンコクで開催されましたが、第2回はスウェーデンで開催される予定ですので、本学会は、それを後援し、必要な協力を行なう予定です。平成27年10月には、ドイツのハノーバーで開催された世界看護科学学会（WANS）の理事会にも出席しました。

その他、日本赤十字看護学会として行なう必要のある国際的な活動は何かについて会員の皆様方のご意見を伺いながら議論を重ね、本学会としての国際活動を推進できるような企画を検討していきたいと思っています。

国際活動委員会 小山真理子 井村 真澄 Herrera C. Lourdes R 東浦 洋 藤井 知美

広報委員会

広報委員会 委員長 西片久美子

日本赤十字看護学会の第6期の理事として、広報委員会委員長をお引き受けすることになりました。

本委員会は、ホームページの維持・管理と年1回のニュースレターの発行を主な役割としています。ホームページは、会員の皆様が学会活動に関する最新の情報を得るための最有力のツールであると認識しています。したがって、必要な情報が、必要な時に得られるようさらに努力をしております。また、より使いやすく、魅力的なホームページとなるよう検討を進める予定ですので、皆様のご意見を、是非お願い申し上げます。

前委員会では、ニュースレターの中で、学会活動の紹介とともに赤十字の活動についての紹介も積極的に行われていました。現在の学会活動にとどまらず、看護・医療の動向を踏まえ、将来を見据えた内容も掲載できることを夢見ています。赤十字看護と学会活動がさらに発展するための一助となるよう、委員会メンバーとともに取り組んでいく所存ですので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

広報委員 西片久美子 大西 文子 小林 尚司 中野実代子

法人化検討委員会

法人化検討委員会 委員長 河口てる子

法人化検討委員会は、今期から発足した新しい委員会です。日本赤十字看護学会は、現在「任意団体」ですが、法人格を取って「一般社団法人日本赤十字看護学会」となるのがよいか、あるいはこのまま「任意団体」を続けるのがよいかを、本委員会が検討いたします。平成20年12月の公益法人制度改革に伴い、いくつかの看護系学会が法人格をとりましたが、中・小規模の学会は法人化に対して躊躇しているようです。日本赤十字看護学会は中規模の学会ですが、今まで法人化に関して、その可否を検討してきませんでした。そこで本学会は、法人化検討委員会を発足させ、法人化のメリット・デメリット、法人化した場合の運用費用・作業、法人化するために必要な費用・作業などを検討し、日本赤十字看護学会にとって有益な選択ができるよう、情報を収集し、検討結果を提示することになりました。

河口は、今期日本赤十字看護学会法人化検討委員長をお引き受けすることになり、鶴田恵子委員、唐澤由美子委員、松澤由香里委員の4名で協力しあって任務を遂行できるよう努力いたします。鶴田恵子委員は、他学会で学会の法人化を経験されており、若手の唐澤由美子委員、松澤由香里委員らの協力を得て、情報収集等を行います。会員の皆様にもご協力のほど、よろしくお願いいたします。

法人化委員会 河口てる子 鶴田 恵子 唐澤由美子 松澤由香里

災害看護活動委員会

災害看護活動委員会 委員長 浦田喜久子

会員の皆様、昨今、災害が大規模化・多発する中でいかがお過ごしでしょうか。被害が大きくならないことを祈らずにはおれません。

さて、本年度、2期目の災害看護活動委員会委員長をお引き受けすることになりました。委員には、1期目の委員に加えて、新たに根岸京子さんをお迎えして活動することになりましたので、よろしくお願いいたします。

当委員会は、「災害時の調査活動や学会・災害セミナー等を通して、災害看護に関する「経験知」を「形式知」として共有し、災害看護の発展に資する」ことを目的に活動しています。主な活動として、日本赤十字看護学会学術集会での交流セッションや災害看護セミナーの開催、東日本大震災被災地への中長期的支援や長野県神城断層地震のあった白馬村の調査及び支援を行っています。これらを通して、これまでに得た知見の情報提供や意見交換を行い、災害看護学への貢献と防災・減災へと繋げたいと考えています。

会員の皆様をはじめ、多くの方々に参加いただき、力を合わせ、益々増大する災害に備えていきたいと思っております。

災害看護活動委員 浦田喜久子 小原真理子 小林 洋子 池田由美子 前田久美子 村木 京子 根岸 京子

フローレンス・ナイチンゲール記章を受章して

8月5日、日本赤十字名誉総裁の皇后様から、フローレンス・ナイチンゲール記章を授けられました。

私は昭和45年、富山赤十字高等学院に入学しました。それまで、自由奔放に生きてきた私は、人間として女性としての教育を受けました。「看護」とは何なのかを教えてくださいました。

私が受章した理由は、「富山型デイサービス」の原型をつくり、全国に広げるきっかけを作ったことです。一つ屋根の下で、赤ちゃんからお年よりまで、色んな人達がいっしょに過ごす富山型デイサービスが世界に認められた事が、一番嬉しいです。

私は22年間、福祉現場で働いてきました。私が受章したことにより、福祉現場で働いている、看護師・ケアマネージャー・介護福祉士・ヘルパーさんたちの励みと喜びになったと思います。

受章は副代表の西村和美のナイスバックアップがあったからです。二人でもらった賞です。どんなときでも、共に歩んできました。

国は「共生社会」と強調していますが、まだまだ共生にはなっていません。これからも縦割行政の壁に風穴を開けていくことが、生涯かけてする私の仕事だと思っています。

「町の暮らしを支える看護師」でありたい。先生ではなく「惣万さん」でありたいと思います。

(特定非営利活動法人このゆびと一まれ 理事長 惣万佳代子)



第45回フローレンス・ナイチンゲール記章を授与して頂いた私は、未だ夢から覚めないのでございます。皇后陛下が私の胸に直接御手で記章を着けて下さいました。尊いお方と至近距離に在るということ自体、信じられない大変なことでございます。このような光栄に浴することの感動と幸せのよこごびは、筆舌にはつくされないのでございます。

幼い頃から、“大きくなったらナイチンゲールになるの”と花を愛し、動物をいたわり、友達と仲良くすることが、私のナイチンゲールでした。夢は本当に実現しました。頂きましたずしりとした記章の表面には、燭を手にしたナイチンゲール女史の像と「1820-1910 フローレンス・ナイチンゲール女史記念」の文字があり、裏面には私の名前と、

ラテン語で「博愛の功徳を顕揚し、これを永遠に世界に伝える」と刻まれています。

式典の最初に、看護学生によるキャンドルサービスが厳かに行われました。一条乱れぬ儀式に私は身の引き締まる思いをいただきました。燭に若い学生たちの頬はとても美しく輝き、日赤のナースであるという誇り高きものが伝わってまいりました。若き学生達よ「ここにバラあり、ここで踊る」(ヘーゲル)を捧げたい。

カー杯はげみなさい、たのしく踊って日々の努力をつみあげましょう。不安や悩み、苦しみは人生の糧となり、新しい創造を生むのです。志を高くもち、学問にげみ誠実な実践から理論は生まれることを確信することです。口数多くしても、それは人とのふれあう場になりません。感性豊かに人を愛することが徳性となり、自分の人間性は育まれるのです。

看護は人間愛による人間看護学として確立すべきです。

どのように生きてきたのかと、人、問えば、博愛の精神であることを省みて、日赤人としてのプライドを傷つけないよう私は、これからも歩きます。皆様のお幸せをお祈りし、改めて心から受賞を感謝申し上げます。

(山田 里津)

はまってけらいん かだってけらいん —陸前高田での場づくり—

日本赤十字北海道看護大学 尾山とし子

東日本大震災の年から4年間、年2~3回の仮設住宅集会所での救急法・AEDの普及を続けてきました。私達にとって、活動後の「お茶っこ」が楽しみの一つです。被災の方々の話を聞くと復興の兆しも感じられます。しかし、仮設住宅からの自立に不安を隠せない方々もおられます。漸く慣れた仮設住宅を離れることが、新たなコミュニティづくりへのストレスに変化してしまうのです。

私達のちっぽけな活動が、新たなコミュニティづくりの原動力として、外から吹く新鮮な風のような役割を果たせればと願ってやみません。



第16回学術集会を終えて

日本赤十字看護大学 高田 早苗

本学術集会を、2015年6月27日28日、日本赤十字看護大学において、メインテーマを「赤十字の『しなやかな強さ』 一人ひとりを大切に生活ケアのデザイン」として開催いたしました。全国から、502名（会員313名、非会員119名）の参加者を得て、講演、シンポジウム、一般演題等で活発な発表、意見交換ができましたこと、お礼と共にご報告させていただきます。

会長講演「看護実践批評の試み」に続き、教育講演「当事者とともに歩むこれからの専門家ケアのかたち」では医療モデルから生活モデルに基づくケアへ、時代は変わる中私たちの準備はどうか、猪飼周平先生から問題提起をいただきました。市民講座を兼ねた特別講演は、かかわりの深い福島県浪江町長の馬場有氏に「明けない夜はないー住民の生活再建を願って」と題してお話いただきました。震災から長期にわたるバラバラの避難生活、言い表しようのない苦しみや悲しみ、馬場町長は絶対に風化させないと強調されました。ともに同じ時代を生きる者として、私たちは、忘れないこと、見つめ続けることが大切と改めて考えました。シンポジウム「ケア共同体を生み出す、運動体としての赤十字」では、惣万佳代子さん、村松静子さん、浦田喜久子さんの3名の赤十字出身の看護師に、赤十字社の内外で新たなケアの創出に向けたご自身の活動を語っていただきました。ユーモアあり、闘志あり、戦略あり、それぞれに得るところが大だったと思います。

その他、3つのテーマセッション、42題の口演と36題の示説発表、11の交流セッションと盛りだくさんの内容でした。いくつものプログラムを並行して組まざるを得なかったために、興味深いテーマであっても参加できず、ということで、これは学術集会長としても個人としても残念と感じて反省しています。

多くの方々のご協力のもとに、盛況のうちに終えることができましたことを改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

「第17回日本赤十字看護学会学術集会」開催のご案内

「第17回日本赤十字看護学会学術集会」が、平成28年7月2日（土）～3日（日）に日本赤十字北海道看護大学（北見市）にて開催されます。テーマは、『オホーツクから看護力の発信 ー今、求められる看護の開拓魂ー』です。ふるってご参加ください。

学術集会長からのメッセージ

日本赤十字看護学会第17回学術集会長 河口てる子

『オホーツクから看護力の発信 ー今、求められる看護の開拓魂ー』

第17回日本赤十字看護学会学術集会のテーマは、「看護の開拓魂」です。赤十字は、看護の開拓者でした。開拓者としてすばらしい仕事をし、看護の歴史を作ってきました。しかし、黙々とすばらしい仕事をしているだけでは、混沌とした現代の医療・保健・福祉の危機を救えません。看護からの発信が必要な時代です。求められる時に、必要な行動と発言を確実に社会に届けることこそ、時代の求める、挑戦する看護でしょう。

学術集会テーマを「看護の開拓魂」としたのは、超高齢社会を迎え、保健医療の提供システムが病院から地域在宅へとシフトしつつある今日、看護の力、看護の開拓魂がますます必要となってくると考えられたからです。大都市を除き、大多数の地域は、特に北海道などは過疎の状態になりつつも、そこには人々の生活があり、病気を抱えながら人々が暮らしています。地域包括ケアシステムが叫ばれていますが、それを実体化させるうえで、重要になるのは地域の人々の生きる力、医療者の地域への目覚め、看護の力だと考えられます。地域の人々の生きる力には、公助、共助、自助のいずれもが必要ですが、医師を中心とした医療だけでなく、地域の人々と一緒に暮らし、在宅患者・家族の実態や地域住民の助け合い状況を知る看護職が大いに活躍できる場ではないでしょうか。看護の開拓魂で、この危機を何とかし、地域生活ケアのグランドデザインを看護が主導して描かなければならないと考えています。

第17回日本赤十字看護学会学術集会は、このような研究者・実践家の交流の場であり、研究成果の発表の場ですので、問題意識を刺激しあって、大いにヒントをもらってください。それと同時に、学術集会の会場である北海道北見市、オホーツクの地も大いに楽しんでいただきたいと思います。北見市の西に黒岳・旭岳のある大雪山国立公園、その西に美瑛・富良野、東に世界遺産の知床半島、南に阿寒湖・摩周湖・屈斜路湖、その南に釧路湿原と、周りは北海道の自然を満喫できる稀有な環境です。どうぞ奮ってご参加ください。

+ NEWS LETTER The Japanese Red Cross Society of Nursing Science Vol.13, 2015.
日本赤十字看護学会ニュースレター 第13号 2015年12月発行

●発行 日本赤十字看護学会 広報委員会

東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内

●学会ニュースレターは学会ホームページからダウンロードできます。

<http://jrcsns.umin.ne.jp>

●学会ニュースレターに関する皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

nisikata@rctoyota.ac.jp

namimo@rctoyota.ac.jp までお願いします。

●編集後記

今年の総会で理事の交代があり、新しい委員会メンバーでニュースレターの準備をいたしました。何とか皆さまにお届けすることができ、ホッとしています。今回は、理事長をはじめ各委員会委員長の抱負やナイチンゲール記章受賞者からのメッセージ等を掲載しています。会員の皆さまに本学会の活動をご理解いただけるような内容にしていきたいと思っておりますので、率直なご意見をお寄せください。これから3年間よろしくお祈りいたします。